地震・津波
ハザードマップ

野辺地町

はじめに

地震・津波ハザードマップについて

（１）この地震・津波ハザードマップは、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の高さ「津波基準水位」と「津波災害警戒区域」、「避難所」、「避難経路」など防災に関する情報を表したマップです。

（２）想定される津波の「浸水域」は、国の「R2日本海溝モデル」、「H26日本海F18（隣接 LRR）モデル」、県が独自に設定した「H24青森県太平洋側独自断層モデル」、「H24青森県平舘断層独自断層モデル」の４つのモデルのシミュレーション結果を重ね合わせ、最大となる範囲としました。「津波基準水位」は、県が令和３年５月２７日に公表した津波浸水想定の浸水深をもとにしています。

（３）地震・津波ハザードマップは、洪水・土砂災害ハザードマップと二冊で一組となっています。誰もが目に入る場所に保管し、予測される震度や災害時の避難場所、安全性等を確認して防災対策に役立てましょう。

ハザードマップの注意点

1 この地図は「津波基準水位」による浸水の高さで色分け表示をしています。

2 最大クラスの津波は、現在の科学的知見をもとに、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。

3 「津波災害警戒区域」や「津波基準水位」は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。

4 局所的な地面の凸凹や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、津波災害警戒区域外でも浸水が発生したり、津波基準水位がさらに高くなる場合があります。

5 津波災害警戒区域や津波基準水位は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。

6 代表地点における津波影響開始時間、第一波到達時間、最大波到達時間を表示しています。

マップ上の表示

地　　名	
津波影響開始時間	○○分
第一波到達時間	○○分
最大波到達時間	○○○分
● 予測代表地点	

津波影響開始時間
　代表地点において地震発生から初期水位±20cmの変化（海辺にいる人々の人命に影響が出るおそれのある水位変化）が生じるまでの時間

第一波到達時間
　代表地点において地震発生から第一波の最大到達高さが生じるまでの時間

最大波到達時間
　代表地点において地震発生から津波の最大到達高さが生じるまでの時間

津波のシミュレーション条件

令和３年５月に県が公表した津波浸水想定を基に作成しました。

（１）想定津波　：　H26 日本海F18（隣接 LRR）想定地震津波
　　H24 青森県太平洋側想定地震津波
　　H24 青森県平舘断層想定地震津波
　　青森県R2日本海溝（三陸・日高）モデル①津波、モデル②津波

（２）構造物条件：　河川堤防、海岸堤防、防潮堤、水門、防波堤などの施設を津波が越流すると同時に、施設の機能が失われると想定

（３）潮位　　：　塑望平均満潮位

被害想定の予測

下の表は令和４年５月に県が公表した「令和３年度青森県地震・津波被害想定調査（太平洋側海溝型地震）」のうち、県全体及び野辺地町の主な被害予測をまとめたものです。

	区分	最大震度	人的被害				建物被害		ライフライン被害（発災直後）				避難者数（直後）
			死者数	負傷者数	要救助者（津　波）	要捜索者	全壊棟数	半壊棟数	上水道断水人口	停電影響人口	通信不通回線数	ＬＰガス被害箇所数	
夏12時	県全体	7	44,000	14,000	22,000	52,000	98,000	82,000	692,000	977,000	309,000	6,300	297,000
	野辺地町	6強	30	50	－	30	390	1,000				60	1,300
冬18時	県全体	7	53,000	15,000	21,000	62,000	111,000	86,000	693,000	976,000	309,000	6,300	311,000
	野辺地町	6強	30	20	－	40	430	1,100				60	1,400
冬深夜	県全体	7	47,000	14,000	17,000	57,000	99,000	86,000	679,000	974,000	309,000	6,300	267,000
	野辺地町	6強	40	50	－	40	430	1,100	6,600	10,000	3,900	60	1,300

－　：該当なし　　：公表データなし（在宅人口が多い冬深夜のみ掲載）

地震による揺れの予測

下の図は国の「日本海溝モデル」、「千島海溝モデル」、平成24・25年度調査で県が独自に設定した「太平洋側海溝型地震」のモデルで予測された揺れの強さから、各モデルの最大値を使用した震度分布図です。

液状化危険度の予測

下の図は各モデルの最大値の地震動により算出した、液状化危険度分布図です。

PL値（液状化可能性指数）：ある地点の液状化可能性を総合的に判断するための指標で、値が高いほど液状化発生の危険性が高まります。

3　全体図

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（基盤地図情報）を使用したものです。
「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 4JHs 583」
「本製品を使用する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」

屋内避難所

施設名	所在地	電話番号
野辺地小学校	字寺ノ沢42番地4	0175-64-2271
中央公民館	字野辺地1番地15	0175-64-3054
若葉小学校	字石神裏16番地	0175-64-0817
野辺地中学校	字浜掛11番地5	0175-64-2225
旧馬門小学校	字家ノ上6番地6	0175-64-2119
木明地区農作業管理休養施設	字有戸鳥井平158番地6	0175-64-2111
有戸地区学習等供用センター	字小沢平10番地8	0175-64-2119
野辺地高等学校	字松ノ木106番地1	0175-64-2266

屋外避難所

施設名	所在地	電話番号
運動公園	字松ノ木114番地	0175-64-2119
野辺地小学校グラウンド	字寺ノ沢42番地4	0175-64-2271
若葉小学校グラウンド	字石神裏16番地	0175-64-0817
えぼしグラウンド	字浜掛79番地6	0175-64-2225
野辺地中学校グラウンド	字浜掛11番地5	0175-64-2225
旧馬門小学校グラウンド	字家ノ上6番地6	0175-64-2119
コミュニティ防災センター（旧木明小学校）前広場	字有戸鳥井平4番地1	0175-64-2111
行政メモリアルセンター（旧有戸小学校）前広場	字小沢平2番地2	0175-64-2111

避難所の開設について
地震などの災害が発生したときや発生する恐れがある場合、町民の皆さんが避難する場所は上表のとおりとなっています。避難指示等が出たときは、誘導員の指示に従い、落ち着いて行動してください。
なお、緊急に避難しなければならないときは、表の避難所にとらわれず、最寄のもっとも安全な場所へ自主的に避難するようにしてください。

凡例

- 屋内避難所
- 屋外避難所
- 行政界

津波基準水位

- 0.01m～0.3m
- 0.3m～0.5m
- 0.5m～1.0m
- 1.0m～3.0m
- 3.0m～5.0m

津波基準水位

浸水予測に基づく浸水深に建築物等への衝突によって生じる津波の水位上昇（せき上げ）を加えた水位のことであり、地盤面からの高さ（m単位）で表示されています。

5　中央エリア

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（基盤地図情報）を使用したものです。
「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 4JHs 583」
「本製品を使用する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」

米内沢	
津波影響開始時間	12分
第一波到達時間	43分
最大波到達時間	161分

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（基盤地図情報）を使用したものです。
「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 4JHs 583」
「本製品を使用する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」

N

津波警報・注意報の種類と想定される被害

種類	発表される津波の高さ：数値での発表（津波の高さ予想の区分）	発表される津波の高さ：巨大地震の場合の発表	想定される被害	取るべき行動
大津波警報	１０ｍ超（10m＜予想高さ）	巨　大	人は津波による流れに巻き込まれる。	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難する。
	１０ｍ（5m＜予想高さ≦10m）			
	５ｍ（3m＜予想高さ≦5m）			
津波警報	３ｍ（1m＜予想高さ≦3m）	高　い	標高の低いところでは、津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。	
津波注意報	１ｍ（0.2m≦予想高さ≦1m）	（表記しない）	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流出する。	海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。

※規模（マグニチュード）が８を超える巨大地震の場合は、「巨大」や「高い」という言葉で発表します。
※規模（マグニチュード）が正確に分かった場合は、「５段階の数値」で発表します。

明　前	
津波影響開始時間	30分
第一波到達時間	162分
最大波到達時間	第一波が最大

木　明	
津波影響開始時間	22分
第一波到達時間	161分
最大波到達時間	第一波が最大

9　馬門エリア

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（基盤地図情報）を使用したものです。
「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 4JHs 583」
「本製品を使用する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」

有戸エリア　10

馬　門	
津波影響開始時間	10分
第一波到達時間	41分
最大波到達時間	159分

出典：気象庁HP「津波の伝わる速さと高さ」

津波の伝わる速さと高さについて

津波は、水深が深いほど早く伝わります。
水深が浅くなるほど速度は落ちますが、津波のスピードは非常に速いため、見えてから逃げるのでは間に合いません。また、津波が陸地に近づくにつれ、あとから来る波が前の津波に追いつき、波高が高くなります。
強い揺れを感じたらすぐに浸水想定区域外や、高くて丈夫な建物などの安全な場所に避難しましょう。

有　戸	
津波影響開始時間	40分
第一波到達時間	157分
最大波到達時間	第一波が最大

地震発生時の行動・避難時の留意点

地震発生時の行動

地震発生時は、慌てず、落ち着いて、身の回りの安全を確認しましょう。

大きな揺れを感じたら
まずは身を守る。倒れそうな家具やガラス窓などから離れる。落ち着いて火を消しましょう（危険なので無理しない）。脱出口（ドア・窓）を確保しましょう。

揺れがおさまったら
火元や、家族の安全の確認をしましょう。

わが家の安全確認
火災、家屋倒壊などの危険がないかどうかの確認をしましょう。安全なら余震に注意し、テレビ・ラジオなどで情報収集しましょう。危険なら非常持出品を持って避難しましょう。

近隣の安否確認、助け合い
安否を確認し、協力し合って救出救護・消火活動などを行いましょう。協力し合って避難しましょう。

避難生活
２～３日は自活できるように日頃から食料・飲料水などを準備しておきましょう。

避難時の留意点

避難時は、余震に注意し、ケガをしないように落ち着いて避難しましょう。

火の元の確認
避難する前にもう一度、火の元を確認しましょう。

安全な服装
長袖、長ズボンなどの安全な服装で、建物のそばや細い路地を避け、徒歩で避難しましょう。

安否情報を知らせる
玄関に避難先や安否情報を記したメモを張りましょう。

階段で避難
避難時はエレベーターを利用せず階段で避難しましょう。

周囲に注意
電柱、ブロック塀、ガラス、切れた電線などに注意しましょう。
海辺や海岸、崖等から離れましょう。

地震の起こるしくみ

日本は、「陸側のプレート」と「太平洋プレート」、「フィリピン海プレート」の境界に位置しており、地震が多く発生する国です。地震の起こり方は、大きく「活断層地震」と「海溝型地震」の２種類に分けられます。

活断層地震

地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることでひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達した時に、ある断層面を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。

海溝型地震

海側のプレートが陸側のプレートの下にもぐりこむことで、境界にひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達した時にプレートが元に戻ろうとしてはね上がり、地震が起こります。
「太平洋プレート」と「フィリピン海プレート」は、年間数センチの割合で「陸側のプレート」にもぐりこんでいます。

震度とマグニチュード

地震のエネルギーの大きさをマグニチュードと呼び、地面が揺れる大きさを震度と呼びます。マグニチュードが大きい地震でも、震源が遠い場合や深い場合は、震度が小さくなります。マグニチュードが１増えると、地震のエネルギーは約３２倍になります。したがって、マグニチュード８の地震は、マググニチュード７の地震の約３２倍ものエネルギーをもった地震であるといえます。

震度と想定される被害～震度による人や建物、家具への影響～

震度	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。		
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。		
2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。	電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。	
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が、目を覚ます。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少し揺れる。
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。	電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。
5 弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。
5 強	大半の人が、物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
6 弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
6 強	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
7	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。

資料：「気象庁震度階級関連解説表」（平成２１年３月３１日改定）

北海道・三陸沖後発地震注意情報

日本海溝・千島海溝沿いの領域では、マグニチュード７クラスの地震が発生した後に、更に大きなマグニチュード８クラス以上の大規模な地震が発生した事例があり、今後も同様の事象が発生する可能性があります。

実際に後発の地震が発生する確率は１００回に１回程度ですが、発生した場合には北海道から千葉県にかけての広い範囲で甚大な被害が想定されます。

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域とその周辺でマグニチュード７以上の地震が発生した場合には、気象庁が「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発信し、後発地震への注意を促します。

情報が発信された際には、後発地震の発生に備えた防災対策をとりましょう。

精度の良いＭｗ決定次第発表

北海道・三陸沖後発地震注意情報

- 「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の発信と解説（気象庁）
- 防災対応のよびかけ（内閣府）

すぐに避難できる態勢の準備を！

巨大地震が発生した場合に、北海道から千葉県にかけての広い範囲で想定される甚大な被害に対し、１週間程度、備えの再確認や迅速な避難態勢の準備を。

すぐに逃げ出せる態勢での就寝　／　非常持出品の常時携帯　／　緊急情報の取得体制の確保　／　想定されるリスクから身の安全の確保　／　日頃からの備えの再確認

【情報の留意事項】

- 「北海道・三陸沖後発地震注意情報」は、後発地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっていることをお知らせするものであり、情報が発信されたら後発地震が必ず発生するというものではありません。
- 先発地震を伴わず、大規模地震が突発的に発生する可能性があります。
- 情報発信の対象とする地震の発生エリア（北海道の根室沖から岩手県の三陸沖）の外側でも、先発地震が発生した周辺では、大規模地震が発生する可能性があります。
- すでに発生した先発地震への対応と後発地震に備えた対応を混同しないようにすることが必要です。

自助、共助、公助の連携

自助のポイント

- 家の中や家の周囲を安全にする
- 非常持出品、備蓄品を準備する
- さまざまな災害の危険性を理解する（ハザードマップ等の活用）
- 家族会議などで災害時の対応や連絡方法を決めておく

共助のポイント

- 地域防災の重要性を理解する
- 防災訓練の意義を理解し、参加する
- 自主防災組織の意義・役割を理解し、参加する
- 避難行動要支援者を支える意義を理解し、支援を実施する

災害情報等を収集する

気象情報や火災情報は、インターネットや携帯電話、ラジオなどを通じて収集することができます。有効活用して、的確な情報を入手しましょう。被害の発生が予想される場合には、町が避難情報を発表する前でも、安全な場所に避難するなど、適切な行動をとるようにしましょう。

地震・津波・地殻変動情報
国土交通省　防災情報提供センター
防災情報提供センター　検索
https://　www.mlit.go.jp/
【携帯電話版】

注意報・警報などの情報
青森地方気象台
青森　気象　検索
https://　www.data.jma.go.jp/aomori/

自治体による防災情報提供サービス
あおもり防災ポータル
青森　防災ポータル　検索
https://　bousai.pref.aomori.lg.jp/

災害時のラジオ局からの情報

FM青森	８４．３MHz
NHK-FM	８３．４MHz
NHK第1(AM)	８４６MHz
青森放送(AM)	１０６２MHz
青森放送(FM)	９３．２MHz

災害伝言ダイヤル

伝言の録音
171 ▶ 1 ▶ 被災した家の電話番号 ▶ 伝言を入れる（30秒以内）
ガイダンス（説明）がながれます。
被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を市外局番からプッシュする。

伝言の再生
171 ▶ 2 ▶ 被災した家の電話番号 ▶ 伝言を聞く
ガイダンス（説明）がながれます。
被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を市外局番からプッシュする。

野辺地町
防災行政無線フリーダイヤル
0800－ 800－ 9959

わが家の防災・緊急情報

世帯主名		電　話	
住　所			
わが家の避難場所	第一避難場所		
	第二避難場所		

■家族の情報	家族の名前	生年月日	血液型	会社・学校等の連絡先	持病・アレルギー等

火災に備える

火災に気づいたら、すぐに「通報」、「初期消火」、そして「避難」することが大切です。優先順位は状況によって異なるため、慌てず冷静に判断するようにしましょう。

①通　報
- 大声で「火事だ」と叫び、周囲に知らせる。
- １１９番通報する。（固定電話・携帯電話）
- 危険が迫れば近所に通報を依頼する。

▶

②初期消火
- 屋内では炎が天井に達するまでとする。
- 必ず避難口を背にする。
- 危ない、怖い、無理と思ったらすぐに避難する。
- 屋外であれば風上から行う。

▶

③避　難
- 日頃から２つ以上の避難できる経路を考えておく。
- 余裕があれば燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断する。
- 煙は吸わないようにする。

通報の仕方

「１１９番」通報時は、最初に必ず「野辺地町です。火災（救急）です。」とお答えください。その後は、指令センター職員の指示に従ってお答えください。
※平成28年4月1日から、緊急通報「119番」は「上十三消防指令センター」で受け付けています。

住宅用火災警報器

火災で亡くなられた方の多くは「逃げ遅れ」が原因です。火災から大切な命を守るため「寝室」、「階段（寝室のある階）」、「台所」への設置が必要です。火災を早期に発見することで、通報や初期消火が早まり、被害の軽減につながります。

消火器の取扱い方法

1

レバーを握っていたら安全栓は抜けないので気をつけましょう。

2

ホース部分を持つとノズルが暴れることがあります。ノズル部分をしっかり持ちましょう。

3

レバーが握れなければ消火器を置き体重をかけて押さえると噴射します。

災害発生時の要支援者の対応について

高齢者・寝たきりの方

日頃の備え
室内はできるだけ広くし、家具や棚の上に重い物、角のある物は置かない。

災害時に
本震がおさまっても余震に備え、家の安全な場所に移動する。

耳が不自由な方

日頃の備え
筆記用具を携帯しておく。

災害時に
メモなどで正確な情報を周囲の人に聞く。

目が不自由な方

日頃の備え
白杖は必ず手の届くところに置いておく。家具などの配置の変更は本人に必ず伝える。

災害時に
笛などを吹き、居場所を知らせる。周囲の人に安全な場所までの誘導を依頼する。

肢体の不自由な方

日頃の備え
室内の安全スペースの確保と家具などの転倒防止策を十分にする。

災害時に
頭部を座布団や手で守る。車いすは安全な場所に止め、介助者の協力を求める。

野辺地町

保　存　版
令和5年2月作成